

仙北市 秋田県 タイ王国パラリンピック委員会 タイ王国車いすバスケットボール協会

左から秋田・タイ王国友好協会の石井貴就会長（立会人）、タイ王国車いすバスケットボール協会のパタラン・クリッサナ会長、同国パラリンピック委員会のチュティナ会長、秋田県観光文化スポーツ部の恵比原史次長、門脇市長、北都銀行の伊藤新代表取締役頭取（立会人）



タイとの連携を確認  
スポーツ交流に関する基本合意書調印式

6月23日、仙北市、秋田県、タイ王国パラリンピック委員会、同国車いすバスケットボール協会は、車いすバスケットボールを中心としたスポーツ交流に関する基本合意書を取り交わしました。これは、昨年12月に同国パラリンピック委員会のチュティナ・ピロムバックデー会長が仙北市を訪れ、スポーツや文化について情報交換を行ったことがきっかけとなったもので、スポーツ交流を通じた連携協力を確認しました。今後は、タイの車いすバスケットボールチームの強化合宿やタイの選手と地域住民との交流の場を設けることにしています。

調印式でチュティナ会長は「スポーツと文化のさらなる発展をともしていきたい。今回の合意が仙北市民に東京パラリンピックへの意識の高まりになると信じている」と話しました。また、門脇市長は「これから太くても親密な交流が始まる。皆さんを家族のような思いでお迎えしたい。親戚のまちに來るような気持ちで仙北市を訪ねて欲しい」と話しました。

秋田ゼロックス杯争奪  
第22回秋田県小学生柔道選手権大会・  
第16回全国小学生学年別柔道大会秋田県予選会

6月9日に「秋田ゼロックス杯争奪第22回秋田県小学生柔道選手権大会」「第16回全国小学生学年別柔道大会秋田県予選会」が秋田県立武道館（秋田市）で開催され、仙北市の選手が活躍しました。



準優勝に輝いた田沢湖慈愛館の田口悠歩くん（左）と佐藤亜耶希さん（右）。



入賞した角館柔人クラブの3人。左から鈴木洋将くん、齊藤武生くん、藤澤善くん。

- 【大会結果】（敬称略）
- ▼1年男子 鈴木洋将（角館柔人クラブ）
  - ▼2年男子 藤澤善（角館柔人クラブ）
  - ▼3年男子 齊藤武生（角館柔人クラブ）
  - ▼4年男子 田口悠歩（田沢湖慈愛館）
  - ▼5年生男子45キロ以下級 佐藤亜耶希（田沢湖慈愛館）
  - ▼4年女子 佐藤亜耶希（田沢湖慈愛館）

歌と軽快なトークで観客を魅了



全国各地でコンサートを行う松山さん。

松山隆宏  
ライブ in せんぼく

6月14日、仙北市民会館でロビーコンサート「松山隆宏ライブ in せんぼく」が開催されました。松山さんは全国をまわり、年間120か所を超える公演を行っているソロミュージシャンで、仙北市は今回で2回目となります。当日は前回仙北市を訪れたときの印象や地方公演でのエピソードトークを交えつつ、自身が作詞作曲した曲や新しく書き下ろした曲、即興で歌を披露するなど、訪れた観客を魅了しました。

春の叙勲

2019年春の叙勲で、元東北地方整備局総務部契約管理官の藤村義夫さんが国土交通行政事務功勞で瑞宝双光章を受章されました。

瑞宝双光章（国土交通行政事務功勞）



藤村 義夫 さん  
（70歳 角館町上野）

元東北地方整備局総務部契約管理官  
昭和42年4月、建設省（現在の国土交通省）に入省。工事契約・会計・用地補償などの業務に従事され、県内においては、仙岩峠や玉川ダム、田沢湖高原にある小先達川第一砂防ダム（サボーカーチャーパーク）などの建設工事に携わり、森吉山ダムの建設工事では副所長を務められました。退職された平成17年4月までの38年の長きにわたり、安全で安心して暮らせる地域づくりに尽力されました。

秋田建築労働組合角館支部



立町ポケットパークで行われた無料の包丁研ぎの様子。

第24回住宅デー

6月16日、秋田建築労働組合角館支部による「第24回住宅デー」が立町ポケットパークで開催されました。無料の包丁研ぎのほか、木工教室では子どもたちが金づちの使い方を教わりながら一生懸命本棚を作っていました。また、角館児童館では、同支部員の4人の職人がボランティアで壁や棚の修繕・引き戸のレール交換を行いました。大石良助支部長は「このイベントで少しでも組合の名前やこういう職人がいるということを知ってもらいたい。また、ボランティア活動はすべて自分たちで材料を持ち込んで行っている。少しでも子どもたちの役に立てば」と話しました。

ユニフォームは違っても、固い結束で合同チームとして初の優勝を掴み取った生保内・豊成中学校野球部。



## 生保内中学校・豊成中学校 合同チームが優勝

学校を超えて  
固い結束

大曲仙北中学校野球大会兼  
全県少年野球大会予選大会

6月21日～22日にかけて行われた「第51回大曲仙北中学校第1地区野球大会兼第85回全県少年野球大会予選大会」で生保内中学校・豊成中学校（大仙市）合同チームが準決勝で西仙北中学校を6対0、決勝で大曲中学校を1対0で下し、合同チームとして初優勝、全県大会への切符を手に入れました。

両校の部員数は、生保内中学校が12人（3年生5人、2年生2人、1年生5人）、豊成中学校が8人（3年生3人、1年生5人）の計20人。昨年の秋に部員が不足する両校野球部が一緒に、チームとしてスタート。授業がある普段はそれぞれの学校で練習、休日や大会前は一緒に練習や試合を重ね、チームのレベルアップを図ってきました。

また、両校の部員たちは、一緒に練習や試合ができる限



抱負を力強く話してくれた生保内中学校野球部主将の石塚蒼大さん（右）と豊成中学校野球部主将の高橋叶夢さん（左）。

られた時間の中で積極的にコミュニケーションを取り、チームワークを高めてきました。

7月2日、田沢湖庁舎に優勝の報告に訪れた生保内中学校野球部主将の石塚蒼大さん（3年生）は「全県優勝を目指してこれまでやってきたので、これでスタートラインに立つことができました。合同練習や試合で培ったチームワークで優勝目指して頑張りたい」と意気込みを語ってくれました。また、豊成中学校野球部主将の高橋叶夢さん（3年生）は「地区大会の優勝で満足せず、全県大会までに課題を克服し、全県優勝目指して頑張りたい」と決意を語ってくれました。

全県大会は7月25日に秋田市を会場に開幕、生保内・豊成中学校は、26日に横手南中学校と秋田東中学校の勝者と対戦します。

6月26日、西木町にある株式会社ストロベリーファーム（増田真一代表取締役）と社会福祉法人秋田ふくしハートネット（久米力理事長）が農福連携協定を締結し事業を進めていることの報告に、田沢湖庁舎を訪れました。

協定の内容は、(株)ストロベリーファームが生産・販売する夏秋イチゴの出荷箱を指定障がい福祉サービス事業所「愛仙」の利用者が組み立てを行うというものです。6月から11月の出荷時期に毎日20箱ほど組み立てます。

(株)ストロベリーファームの宮下聡一郎統括マネージャーは「梱包作業の時間をイチゴの手入れにかけることができるので助かっている。愛仙の皆さんが組み立てた箱は折り目がしっかりとしてスタンプもきれいに押されている。」と話しました。

久米理事長は「きれいに作るために何回も練習した。重度の障がい者でもできる作業で思った以上の成果がでている」と話しました。

実際の作業の様子では、1つひとつの作業を丁寧に行いながらも楽しく取り組んでいて、職員からは「得意とすることが増えて、自信につながっている」との声が聞かれました。

株式会社ストロベリーファーム  
×  
社会福祉法人秋田ふくしハートネット

## 農福連携協定を締結



手際よく箱を組み立てていきます。できあがった箱はストロベリーファームに引き渡され、イチゴの出荷に使用されます。

## 夢の教室

一步を踏み出そう

6月18日、「夢の教室」（日本サッカー協会主催）が白岩小学校で開催され、白岩小学校・松木内小学校の5年生が参加し、元日本代表バレーボール選手の井野亜季子さんを「夢先生」に迎え授業を行いました。

前半は、体育館で体を動かしながらみんなで協力することの大切さを学びました。

後半は教室で、井野さんの現役時代をもとに「夢に向かって悩んだときは自分がどうしたい？どうなりたいたい？と考え、家族や仲間と悩みを話して、夢に一步近づきました」と、夢を持つことや、夢に向かって努力することの大切さを学びました。また、「一步踏み出すことを恐れずに頑張つてほしい」と話しました。

最後は自分の夢をみんなの前で発表し「栄養士になって、みんなに喜んでほしい」「メジャーリーガーになって、みんなが楽しめるプレーをしたい」など様々な夢ができました。



夢先生・井野亜季子さんの言葉を子どもたちは真剣に聞いていました。

「田沢湖病院健康まつり」は、病院職員が地域の皆さんとともに健康づくりの輪を広げ、健康づくりの実施に貢献することを目的として、毎年開催されています。今年も6月16日、市立田沢湖病院・田沢湖健康増進センターを会場に「田沢湖病院健康まつり」が開催されました。

当日は、約100人が来場し、医師による講演会や各科スタッフによる健康相談・骨密度測定・野球肘検診などに参加しました。



エコーを使った野球肘の検査が行われました。



老人クラブ  
連合会

## 世代間交流運動会

6月26日、仙北市老人クラブ連合会（藤原剛会長）主催の世代間交流運動会が旧角館東小学校体育館で開催されました。

この日参加したのは市内の27老人クラブから会員143人と角館こども園の園児37人。赤組、白組にわかれ煎餅食い競争や縄ないリレーなど全14種目を行いました。

園児や同じチームの間からの「頑張れー！」とい

う声援の中、競技は盛り上がりを見せ、笑顔あふれる運動会となりました。

競技の結果は赤組が1145点、白組が1085点で赤組の優勝。優勝した赤組キャプテンの渡辺由美子さんは「皆さんの歳に負けないくらいのファイトのおかげで2年連続で赤組が優勝できた。これを機会に皆さんにさらに若返ってほしい。また来年も優勝したい」と喜びを語りました。

広がる健康づくりの輪

## 田沢湖病院 健康まつり



佐々木英人院長による講演会の様子。